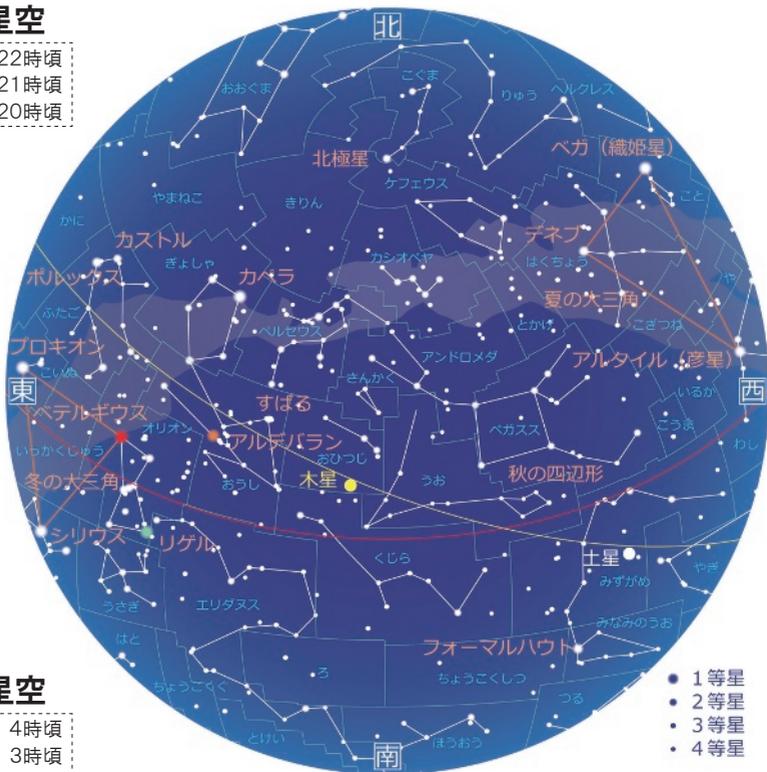


# 星空ガイド 11月16日～12月15日

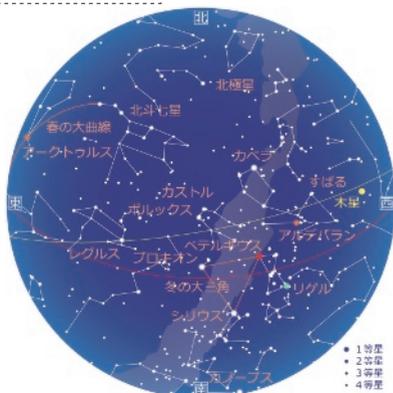
## よいの星空

11月16日22時頃  
12月1日21時頃  
15日20時頃



## あけの星空

11月16日 4時頃  
12月1日 3時頃  
15日 2時頃



[太陽と月の出入り(大阪)]

月	日	日の出	日の入	月の出	月の入	月齢
11	16	6:31	16:52	9:28	18:53	2.7
	21	6:36	16:50	13:19	---:---	7.7
	26	6:41	16:48	15:49	5:11	12.7
12	1	6:46	16:47	20:04	10:19	17.7
	6	6:50	16:46	---:---	12:52	22.7
	11	6:54	16:47	4:56	15:08	27.7
	15	6:57	16:48	9:16	18:53	2.1

※惑星は2023年12月1日の位置です。

## 2つの流星群

11月18日にはしし座流星群が、12月15日にはふたご座流星群が極大を迎えます。極大とは、流星の数が多くなる時期、時間をさします。ただし、「その流星が私たちの目に見えるかどうか」は、月明かりやその他の様々な要素が関係していますから、極大だからと言って、必ずしも流星がたくさん見えるとは言えません。

しし座流星群は約33年ごとにすさまじい数の流星が見られることで知られた流星群です。2001年には日本でも1時間に1000個もの流星が観測されました。その様子から流星雨や流星嵐とも表されることがあります。一方、2003年以降はあまり流星が見られていません。次の周期は2034年ですから、期待して待ちたいところでもあります。

ふたご座流星群は、毎年数多くの流星が観測できます。しかも今年は12月13日が新月ということもあって、絶好の観測チャンスです。14日の夜から15日の早朝にかけては、街灯りのないところからなら1時間当たり30個から70個ほど観測ができそうです。

しし座流星群やふたご座流星群、と聞くと、ついしし座やふたご座のあたりを見たくなってしまうものですが、流星はその星座付近のみではなく、様々な方向に見えますから、なるべく空の開けたところから空全体を見るようにするのが良いでしょう。筆者のおすすめはレジャーシートの上に寝っ転がって空を見上げることです。

また、見える流星の数は本人の視力や、慣れといった要素も影響しますのであまり数を気にせず空を見上げてみるのが良いかもしれませんね。いずれにせよ、例年非常に寒くなります。温かい格好で、また安全には十分注意して観測に挑戦してみてください。

## 月と惑星がならびます

10月末に月と木星が近づいて見えましたが、11月は20日に月と土星が、25日には月と木星が、さらに12月9日から10日にかけては明け方の空に月と金星が近づいて見えます。それぞれの惑星と月の美しい組み合わせを是非楽しんでみてください。

## 加守田 優(学芸補助スタッフ)

### [こよみと天文現象]

月	日	曜	主な天文現象など
11	18	土	しし座流星群が極大(10時) 火星が合
	20	月	●上弦(20時) 月と土星がならぶ
	22	水	小雪 月が最近(369,818km)
	23	木	勤労感謝の日
	25	土	月と木星が接近 (18時頃約1.8°に)
	27	月	○満月(18時)

月	日	曜	主な天文現象など
12	4	月	水星が東方最大離角
	5	火	●下弦(18時) 月が最遠(404,346km)
	7	木	大雪
	9	土	月と金星がならぶ
	13	水	●新月(9時)
	15	金	ふたご座流星群が極大(2時)